

Webサービスを利用したマルチメディア授業の利点と注意点

運営堂：森野 誠之（非常勤）

1. はじめに

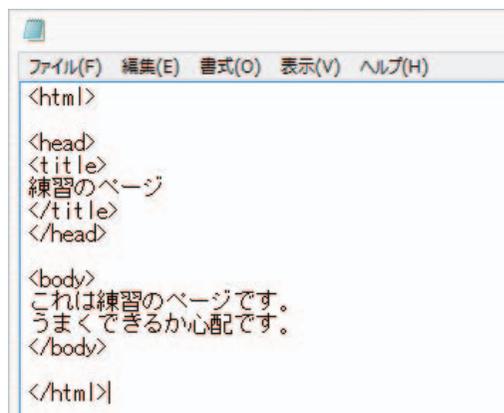
筆者は2007年からマルチメディア表現の科目を担当しており、当時はデスクトップPCにソフトをインストールし授業を行っていた。現在もGIMPなどのフリーソフトを利用することはあるものの、ブラウザで完結するWebサービスを用いることも多くなっている。2010年前後と2015年を比較し、Webサービスを利用したマルチメディア授業の利点と注意点について述べる。

2. 授業の内容とその変化

2-1 2000年代後半のWebサイト制作

2007～2009年までのWebサイトの制作はテキストエディタにHTMLを記述し、学内サーバにデータをアップロードする流れで行っていた。タグの説明、大文字小文字・半角全角の説明、ハイパーリンクの説明が主なもので見た目や内容よりも学生にとってはプログラミングに近い内容であった。演習時に作成していたHTMLの例を図1に示す。

時代を感じさせるものであるが、当時はこのHTMLファイルをブラウザで開



```

<html>
<head>
<title>
練習のページ
</title>
</head>
<body>
これは練習のページです。
うまくできるか心配です。
</body>
</html>

```

図1 HTML演習用データ

いて表示されることに驚く学生も多かったのも事実である。スマートフォンもなくネット環境も整備されていない頃であるのでこれで問題はなかった。

2-2 2015年のWebサイト制作

2010年代になるとビジネスでのWebサイト制作はWordPressやMovable TypeなどのCMS（Content Management System）中心に移行し、HTMLファイルを量産することが減り始めている。CMSで作成する場合はレンタルサーバーの準備が必要となり、HTMLではなくてPHPやJavascriptなどのプログラミング言語を用いることも求められるためにレベルも高く、学生に



図2 ペライチトップページ

説明するのは不可能であった。従来のHTMLを教えることも可能ではあったが、学生が日頃見ているWebサイトとは程遠い完成となるために意欲もわからない問題もあった。

2015年はCMSよりもさらに手軽に作成したいというユーザーニーズの現れから、WebサービスでWebサイトを制作できるようになった。その主なものがペライチというサービスである(図2)。縦長でページ遷移のないランディングページと言われるWebサイト制作できるもので、HTMLやPHPなど知識も必要なくパーツを組み合わせるだけ完成してしまう。

また、スマートフォンが普及したこ

とでWebサイトも対応せざるを得なくなったが、ペライチでは自動で対応するためにHTMLなどを知らなくても問題なく作成が可能である。学生は95%以上がスマートフォンを所持しているので、スマートフォンに対応したWebサイトを作成し閲覧することで実感も得やすいようである。

図3にペライチの管理画面を示す。

画面を見てわかるようにテキストはそのまま入力すれば反映され、パーツは「+」を押すことで追加される。パーツの上下は右上の矢印で調整し、削除は「×」ボタンを押せば反映される。直感的に操作が分かる管理画面となっており、学生への細かい説明なしで操作させても問題



図3 ペライチ管理画面

なく作成ができていた。

学生の評価に関しては、2010年ごろのようにHTMLの記述を中心に評価する授業から、デザインや構成を中心に評価するものに変更している。このためプロ並みのWebサイトを作成する学生もあり、授業後のアンケートでもペライチよりもレベルの高いものを使いたいという意見も見られた。HTMLの頃は難しかったとい意見が大半だったのと比較するとツールの進化が学生の意識を変えたともいえる。

利用時のアカウント作成に関しては特に説明をしていない。スマホアプリなどで登録を求められることも多いため、学生も慣れていたのであろう。

2015年以前にもJimdoなどのWebサービスも存在しているが、同一IPアドレスで同時にアクセスすると制限がかか

るために実習室での利用には向いていなかった。事前のテストの動作は問題がないが、授業当日にならないと現象が発生しないためWebサービスを利用する場合は万が一に備えた準備も必要になる。

2-3 Webサイト制作サービス利用時の注意点

Webサイト制作時に注意するのは個人情報である。事前に学籍番号や電話番号などの個人情報を入力しないことを徹底するとともにシステム面でも注意を払うことが必要である。Googleの情報収集ロボットであるGooglebotに情報収集をされてしまうとGoogleやYahoo!などの検索の結果に表示されてしまう可能性があるために、授業で使う際は事前にGooglebotを除外することが求められ



図4 Googlebot 除外の設定

る。ペライチでの Googlebot 除外の設定は以下のようにになっている。(図4)

Webサービス側で除外の設定がない場合でも、公開・非公開の設定ができることもあるが、除外できない場合は授業では用いてはいけない。また、サービス自体の退会方法も学生に周知しておき、成績確定後に希望者には退会させることも必要である。

3. 画像・動画ファイルの取り扱い

3-1 画像や動画ファイルの持ち運び

こちらも Web サービスの普及により恩恵を受けた部分である。2010年ごろは USB メモリが主な保存媒体であったために、授業に持ってくるのを忘れてくると何もできず、学内 PC のデータを保

存し忘れると自宅で作業ができないというデメリットがあった。USB メモリ自体の破損やデータ破損も多く、作成した HTML を作り直す場合も少なからず発生していた。

昨今ではクラウド上にデータを保存できるオンラインストレージが広まっており、ここにデータを保存することで場所を選ばずにデータの出し入れができるようになってきている。主な Web サービスは DropBox, OneDrive である。これらは無料でも数ギガのデータ容量があるために、動画を保存することもあるマルチメディア系の授業でも容量を気にすることは全くない。安心して作業をできる環境を提供することも重要であるので、マルチメディアの授業ではなくてはならないサービスとなっている。

3-2 オンラインストレージ利用時の注意

オンラインストレージという名の通りインターネットに接続していない使うことができない点には注意を払う必要がある。課題提出期限が近くなって自宅での作業中にネット接続ができなくなることがあり、必要な画像ファイルなどがダウンロードできない場合がある。PC内のローカルフォルダとの同期機能を利用し、不測の事態に備えること周知することで回避できる。

4. フリー素材

4-1 フリー素材の利用

Webサイトの制作などには画像素材が必要であり、自分で撮影した画像を加工することも可能であるが、クオリティの高いものとなると2010年ごろには有料の画像素材を購入せざるを得なかった。現在では無料の素材サイトでもクオリティの高いものを配布しており、それを使うだけでプロ並みのWebサイトを作成することが可能である。主な素材サイトはぱくたそである（図5）。

ぱくたその特徴は個性的な画像がそ



図5 ぱくたそトップページ



図6 男性の素材



図7 女性の素材

ろっていることに加え、高解像度の素材も提供されていることである。ペライチを利用する場合は背景に画像を使用することもあるために、高解像度の素材はとて重宝する。個性的な画像素材も紹介する。(図6～8)

4-2 フリー素材全般の利用時の注意点

フリー素材全般の利用上の注意点は利用規約である。フリーであると自由に使ってよいように捉えがちだが、利用規

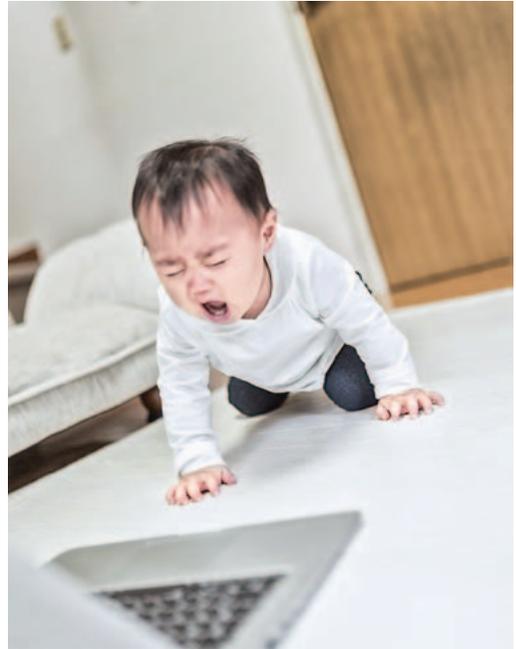


図8 赤ちゃんの素材

約によってはトラブルになることがある。トラブルになりやすいのは人物で、事前に許諾を取っておらずに当事者同士で許諾を取ることが書かれている場合もある。授業で利用する際は利用規約を熟読し不明点がある場合は管理者に問い合わせるとともに、回答がない場合は授業での利用を控えるべきであろう。

5. まとめ

Webサービスの進化により見栄えの良いWebサイトを簡単に作成することができ、インターネットに接続できれば作業場所も問わなくなっている。しかし、Googleの情報収集能力やフリー、

無料という言葉を鵜呑みにすると個人情報
の漏えいや法的なトラブルになる可能
性もあるので細心の注意を払う必要があ
る。実際にサービスをした後に、著作権
やプライバシーの漏えいに関する座学に
より学生の理解も深まることが期待され
る。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、株式会社
ホットスタートアップ 橋田一秀氏、山
下翔一氏、香月雄介氏、並びにぱくたそ
すしばく氏に多大なご助力いただきま
したことを、心より感謝申し上げます。

